

新課程対応:27年センター試験志願者数は 54.5万人前後で、2年連続の減少か!?

—出願締め切り時点の志願者数は50万8,561人—

旺文社 教育情報センター 26年10月9日

27年3月の高等学校卒業者数は、今春に比べ1.6%増の約106万8,000人と推測される。そうした中、数学・理科について最初の“新課程”対応となる27年センター試験の出願受付が、10月9日締め切られた。

大学入試センターから発表された、同日17時現在の出願状況は以下のとおりである。

●出願総数	508,561人(529,291人; -20,730人、3.9%減)
<内訳>	
○高等学校等卒業見込者 (高等学校等経由出願)	424,449人(428,883人; -4,434人、1.0%減)
○高等学校卒業者等 (個人直接出願)	84,112人(100,408人; -16,296人、16.2%減)

(注) 1. ()内は、前年締切日(25年10月11日17時現在)の志願者数、及び減数と割合を示す。

2. 26年10月9日の消印まで、出願を受け付ける。

3. 重複出願等の確認、試験場の指定等を行った後、確定志願者数等の統計資料や試験場一覧が発表される(11月末予定:26年確定志願者数は560,672人)

○ 最終的な志願者数は、今後消印有効分の3万5,000人程度が加わり、54万5,000人前後になるとみられる。これは26年の56万672人(確定)よりも1万5,000人程度減るとみられ、2年連続の減少になりそうだ。

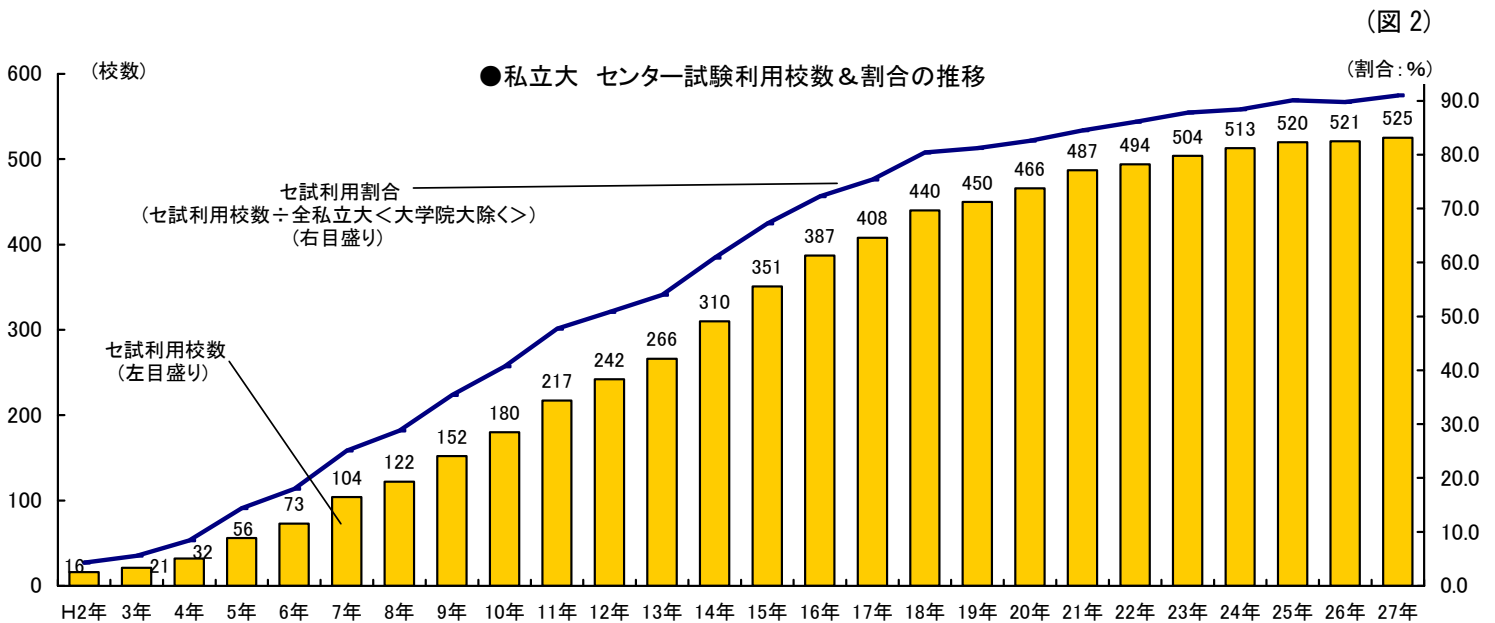
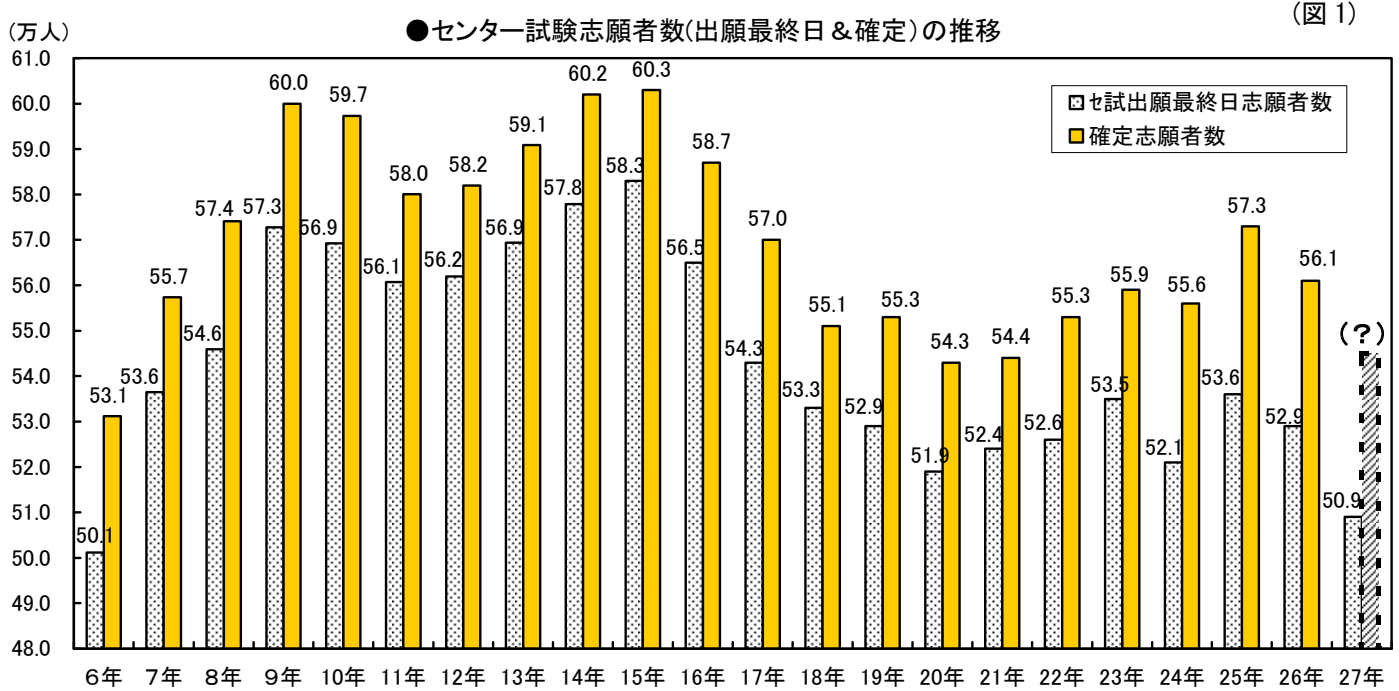
○ 来春の高等学校卒業者数が約1万7,000人、1.6%増加するにもかかわらず、センター試験出願の高等学校等卒業見込者(現役生)は2年連続で減少するとみられる。

現役生の出願が減少した背景には、特に新課程「理科」の選択解答方法が複雑・多様化し、文系志願者にも理科の「基礎2科目」がセットで課されることなどから、センター試験出願を敬遠したことなどが挙げられよう。

ただし、出願時に理科の選択パターンを事前登録することから、高校経由の出願に際して教員も慎重になり、出願取りまとめに時間がかかったとみられる。そのため、最終的には締切日の消印有効分が例年以上に多くなることも予測される。

○ 一方、既卒者は26年センター試験の大幅増(25年10月の締切日時点で前年比6.0%増)から一転し、2年ぶりの大幅な減少になりそうである。既卒者の志願者が減少した背景としては、新課程を控えた今春の入試において、“後がない意識”から安全志向、慎重出願が強いはたらき、浪人回避の動きが例年以上に高まったことなどが挙げられる。

なお、27年のセンター試験利用大学・短大は、公立2大学・私立4大学増の国公私立691大学／私立3短大増の161公私立短大(26年3月末現在の予定数)である。



(注. 27年の私立大センター試験利用校数は、26年3月末現在の予定数)